

# プライマリーケアとE. I. S

帯広市医師会  
帯広南の森クリニック

## 表 由晴

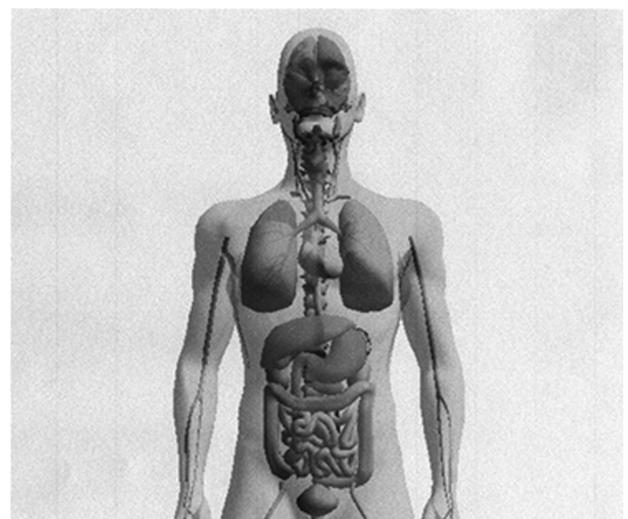
地域での幅広いプライマリーケア(一次医療)を目指して2000年3月に開院して18年が経ちました。外科、整形外科、内科を標榜し、平日は夜7時まで診療し、その他の時間も可能な限り対応することとしました。当初は過疎地でもないのに何にでも手を出したり、そんなに働いたらじきに潰れてしまいますよとの批判も耳にしましたが、なんとかやり通して今日に至っています。お蔭様で多くの患者さんに来院いただき、現在までに診療録が約3万8千人に達しました。幼児の肘内障などは夜間になってから起こすことが多く、母親からの要請で、一度閉めたクリニックを再度開けて処置をしたことなど、数え切れません。泣き喚いていた子どもがぴたっと泣き止み、本人も母親も、そして感謝された自分も満足感で翌朝までぐっすりと眠ることができて、まさに良いこと尽くめです。その反面、自分の自由時間などはほとんどなく、1日12時間、年間300日の労働時間で今日に至っています。多分過労死の危険ラインに達しているのだと思いますが、昔の開業の先生の多くはこのような働き方をしていたと拝聴しております。年齢的に、そろそろ出口戦略を考えなければなりません。遅い時間帯に来院する多くの患者さんを断るわけにもいかず、この先しばらくはこの診療体制が続きます。

昨今、人々の日常生活、社会活動、働き方の多様化に伴い、疲労、ストレス、自律神経の乱れ、うつ傾向等を基盤とする、全身倦怠感、めまい、動悸、呼吸苦、不眠、食欲不振、腹部不快感、頭痛、肩こり、手足の痺れ等、多彩な訴えで、特に遅い時間帯に来院する患者さんが多くいます。他院での通常の血液検査、その他の検査では異常が見つからないことがほとんどで、ほかの一般の患者さんの合間を縫って、限られた時間でこれらの患者さんにそれなりのオリエンテーションをつけてあげることは、それほど容易ではありません。

このような状況の中、1年ほど前に東京の会社から、E. I. S(Electro Interstitial Scan 生体電流インピーダンス測定)装置を紹介され、導入しました。まだ一般には馴染みはありませんが、全身の電気抵抗をチェックし、身体諸臓器、生体システムの機能異常の早期発見に役立つ検査法です。測定方法は簡単で、裸足でステップ台に立ち、両手をプレートに置き、額に二つのパッドを当て、約3分間で計6カ所の電極から全身に1.28Vの微弱な電圧で22パター

ンの通電を行います。DC(直流)電流は組織中の細胞間質のみに流れ、一方AC(交流)電流は細胞内および細胞外の血管、リンパ管にも流れる特性をとらえ、モデリングのための間質導電率(インピーダンスの逆数)と、電気化学におけるコットレルの等式から数学的変換に基づく間質生化学値を測定します。得られたインピーダンスデータは2万2千人以上の治験データを基に解析され、神経伝達物質、脳、心臓、内臓全般、泌尿生殖器、内分泌、自律神経、代謝、脊髄、免疫等のデータを3D画像にモデリング表示し、さらに各部位の状態を色および数値により分かりやすく表示されます。全てのモデリング画像において、-100から+100の間の値に沿って処理された導電率を表示し、マイナスの数値は慢性的病変を、プラスの数値は急性的病態を示し、その絶対値が大きいほど、その程度が強いことを示します。

今までの自験例では、概ね患者さんの訴え、病態に沿ったデータが得られています。



E. I. S 3Dモデリング画像